

兵庫県産の植物図 (12) クスノキ科Lauraceae

矢内 正弘*

Masahiro YANAI : Illustrations of plants in Hyogo Prefecture (12)
(Lauraceae)

はじめに

兵庫県産の植物図 (10) と (11) は『兵庫の植物』20号に載せる予定である。前に記載した部分と重複するところは省く。今回はクスノキ科の植物図を報告する。

クスノキ科 Lauraceae

図1A. ヤブニッケイ *Cinnamomum japonicum* Sieb. et Zucc. 姫路市花田町 Sept. 1 2003 MY 42225. 花は新葉とともにつき、花柄は5mm。萼と花弁は同形。雄しべは4輪。花被片の内側に1, その内側に腺体がつく雄しべが3, その内側にやや短い雄しべ3。いずれも短毛が多い。雌しべは子房や柱頭などは無毛。子房の部分は雄しべの付け根よりも下部にあり、ほとんど花床の中に埋没する。雌しべは2mm。果実は長さ1.3~1.5cm 黒色、長さが幅より少し長い。中に果実よりやや小さい種子が1個入っている。果実も種子も表面は平滑。種子は黒色、楕円形、長さ1cm。

B. クスノキ *Cinnamomum Camphora* (L.) Presl 花: 姫路市本町(栽培) May 22 1999 MY 31718. 果実: 小野市河合西町 栽培 Sept. 22 1991 MY 12456. 兵庫県の木に指定。栽培もされるが野生にも生育する常緑高木。本来の自生かどうかは、はっきりしない。花は今年の新枝につく。花柄より短い早落性の苞がある。花の軸や花柄は無毛。花は2mm。その中は綿毛が多い。花被片は(3+3), 雄しべがそれぞれの内側にあり、腺体のついた雄しべが最も内側につく。雄しべは1.5mm。雌しべは1。果実は黒紫色、径1cmに満たない。

図2. カナクギノキ *Lindera erythrocarpa* Makino 雌株: 宍粟郡山崎町梯 May 8 1993 MY 16013. 冬芽: 神戸市トエンティクロス Oct. 25 1993 MY 14821. 果実: 朝来郡朝来町神来畑 July 18 1993 MY 17538. 県内で普通に見られる。花芽は丸く、葉芽は細長い(A)。雌雄異株の落葉高木。雄花は雌花よりやや大きい。雄花の花柄は10mm, 密毛が見られる。花被片は6, 長さ2.5mm, 短毛や腺点が見られる。雄花は雄しべ(3+3), 腺体をもつ雄しべは3。腺体

をもたない雄しべは3。退化した雌しべが中央に見られる。雌花はよく発達した雌しべが中央にあり、退化した雄しべが見られる。腺体をもつ雄しべ3と花糸のみの雄しべ3が見られる。果実は径7mm, 10mmの柄がある。果実のすぐ下の柄の部分はややふくらむ。果実は赤熟する。中に1個の種子を含む。種子はほぼ球形で径6mm。

図3. ヤマコウバシ *Lindera glauca* (Sieb. et Zucc.) Bl. 果実: 養父郡養父町三谷 Sept. 21 1998 MY 29556. 雌株: 豊岡市市場 April 1 2000 MY & H. Ono 33058. 冬芽: 揖保郡新宮町テクノポリス Oct. 27 2004 MY & A. Matsunaga 43080. 冬にも枯れた茶褐色の葉がつく。雌雄異株だが雌株のみが知られている。果実はできる。葉裏は白っぽく絹毛が多い。枝にも短毛が残る。冬芽は長さ7mm。雌花序は2cm。その付近は軟毛が多い。1cmの苞が数個花序をつくる。雌花は花柄が数mm, 軟毛が多い。花被片が6, 雌しべの先は花被片より突き出る。退化した仮雄しべはひも状となってつく。雌しべは2mmで大変大きい。果序は数個集まり、その果柄は1.5~2.5cm, 短毛あり。その柄は果実に近づくほど太くなる。果実は径5~8mmで黒熟する。

図4. ダンコウバイ *Lindera obtusiloba* Bl. 雄株: 宍粟郡波賀町赤西 April 17 1994 MY 19638. 開葉: 飾磨郡夢前町明神山 March 31 1985 MY 2949. 果実: 宍粟郡一宮町阿舎利川沿い Aug. 23 1995 MY 23492. 花芽: 揖保郡新宮町テクノポリス Oct. 27 2004 MY & A. Matsunaga 43086. 雌木: 豊岡市市場 April 25 2000 MY & H. Ono 33060. 冬芽の花芽は長さ7mmと大変大きくほぼ球形。赤褐色の鱗片に包まれほぼ球形。葉と花はほぼ同時に開く。葉は先端が3に分かれる時と先端がとがった楕円形になる時とある。葉脈は3本が目立つ。葉裏には絹毛が脈に沿って多い。雄花序は数個の雄花が集まる。雄花柄は4mmと割に長く斜めに軟らかい褐色の毛が密生。花被は外側に長軟毛が多い。中央には退化した雌しべが見られる。雌花にも退化した雄しべが6本ある。その内3本は腺体のついた雄しべ, 他の3本は棒状。果実は径7mm。果柄には短毛が残存している。果実には1種子を含む。ほぼ球形, 径7mm。

*670-0811 姫路市野里大日町345-2

図5. アブラチャン *Lindera praecox* (Sieb. et Zucc.) Blume ♂株：飾磨郡夢前町雪彦山 March 17 1991 MY10189。冬芽：佐用郡千種町板馬見溪谷 Oct. 9 1994 MY20951。果実：飾磨郡夢前町明神山ふもと July 30 MY25723。雌雄異株。県内では、開花はクスノキ科でも最も早い。クロモジやカナクキノキなどよりも早く黄色い小さい花がつく。雄花序、雌花序ともに数個の総苞片に包まれ数個の花が集まっている。総苞片は内側には褐色の短毛が多い。雄花柄は短毛がある。雄花は3輪、雄しべ6、最内輪の雄しべは基部に2個の腺体が見られる。葯は内向、2室。小さい退化した雌しべが中央にある。雌花も基本的には雄花と同様、ただ子房が大きく、雄しべなどが退化して葯がはっきりしない。果実は大きくふくらんで黒褐色、1cmを少し越える。果実の柄は15mm、中に1個の種子を含む。種子はほぼ球形、1cmをやや越える。縦にわずかに弱い隆起が見られ、白い斑紋模様がある。

図6. クロモジ *Lindera umbellata* Thunb. 雄株：神崎郡市川町甘地 April 8 1990 MY7389。雌株：佐用郡佐用町延吉 May 6 1995 MY22822。果実：朝来郡生野町宮ノ谷 Aug. 25 1991 MY11985。冬芽：Nov. 17 1968 Hosomi7808。県内にごく普通の落葉低木。小林(1992)は淡路島の植物を詳しく調査したが不思議なことにこの島では分布しないことに気づかれた。材の香りがよいのでつまようじに使用される。花芽は丸く、葉芽は細長い。両方とも軟毛が見られる。雌雄異株。花が先に咲く場合(7389)と花と葉がほぼ同時の場合が見られる(22822)。花の数は雌株のほうが雄株よりも少ない。雄花序は30個ほどの花の集まりで、雄花は6の花被片の内側にそれぞれ雄しべがある。退化した雌しべは粒状で小さい。そのすぐ外側には密腺をもつやや小さい雄しべが3本ある。密腺は黄色。雌花序は数個の花が集まって花序をつくる。雌花は中央に大きな雌しべが占め、退化した雄しべが取り囲む。果実の果柄は長さ15mmで果実に近づくと太くなる。果実は径6mm、黒色。種子は径5mm、球形。

図7A. ホソバタブ *Persea japonica* Sieb. et Zucc. 花：多可郡加美町三谷 May 26 2002 MY40759。果実：氷上郡山南町西谷T. Kobayashi12078。花被片は黄色、6、内側に短毛がある。花被片にともなう雄しべは6、約4mm 花被片と同長。花床は長白毛が多い。花糸は無毛だが基部にはわずかに短毛が見られる。2個の密腺は花糸の約半分の長さ。最も内側に退化した雄しべが3ある。果実は球形、径10mm、黒色。果柄は7~10mm。

B. タブノキ *Persea Thunbergii* Sieb. et Zucc. 果実：姫路市妻鹿 July 4 1992 MY3625。海岸近くに自生する。街路樹としても栽培もされる。冬芽は大きくて長さほぼ1cmにもなる。花柄は1cm内外。花はク

スノキ科の中でも最も大きい。花被片は6、内側の3枚はやや大きい。約6mmもある。大きい3枚は内側に短毛が多い。雄しべや雌しべは花被片よりやや背が低い。雄しべは花被片の内側に1本ずつあり、また腺体がある雄しべが3。花床付近は短毛が見られる。雄しべは2mm強。果実は1cmを超えるほど。少し平たい球形。種子は径11mm、やや平たい球形。

図8. カゴノキ *Litsea lancifolia* (Sieb. et Zucc.) F. Vill. 果実：篠山町畑山鑛市 Aug. 1 2003 MY & Y. Ozaki 41984。雄花：姫路市八代本町 MY32585。雌花：洲本市三熊山 Sept. 24 1994 N. Kurosaki19233。暖地に生育する常緑高木。太くなると樹皮は鹿の子模様になることがよく知られている。雌雄異株。9月に開花。雄花序は葉腋に大変たくさん花をつける。総苞片は雄花序、雌花序ともに4枚。2枚ずつが対生し、色は褐色、短毛が多い。雄花は花被片は6ありその内側に雄しべがあり、一番内側に腺体が2個つく雄しべが3本見られる。雄しべは約6mmと長く花被片よりずっと突き出る。花糸には軟毛が生えている。葯は4室。雌花は1mmの太い花柄がつく。花被は基部は筒状で先端は6に分かれる。外側には短毛が密生する。仮雄しべは縮れた短毛がある。2年超しに果実ができるが、果柄は大変太いのが特徴。果実は赤く熟し、長さ8mm。

図9A. アオモジ *Litsea Cubeba* (Lour.) Pers. 花：姫路市内 栽培 Feb. 27 2002 MY40091。葉：加古川市神野町福留 Sept. 28 2000 MY & H. Ono35825。果実：鹿児島県 5/18。栽培されたものがそのまま放置され、野生化した場合も見られる。県内では所々で採られている。雄花序の総苞片は4、ほぼ円形、中に5、6個の雄花がある。花序の柄は1cm内外、雄花の柄は2~3mm、花被片は外側が3、内側が3で白色、雄しべは3mm、それぞれの花被片の内側にある。中央に退化した雌しべがあり、そのすぐ外側に2個の密腺がつく雄しべが3ある。密腺は黄色く花糸のやや下部にある。果実はほとんど球形、5mm。なお橋本(1995)には記載がない。勿論この種はもと栽培品がそのまま放置されたり逃げ出したものだが、ここ30年の間に兵庫県では淡路島北部や中播磨辺りで多く見られるようになった。

B. イヌガシ *Neolitsea aciculata* (Bl.) Koidz. 雌株：神崎郡市川町岩戸 April 9 1994 MY 19535。雄花：神戸市摩耶山柚谷上部 April 1 1993 S. Miyake1942。花は3月から4月に咲く。雄花は径4mm、花被片4、外側は綿毛におおわれる。花柄にも軟毛が見られる。花被片の内側の1本ずつに雄しべがあり、その内側に2個の蜜腺を持った雄しべ2本、合計6本。雌花序は雄花序に比べて花数が少なく枝につく。数個の雌花がくっつく。雌花は花柄は2mmと短く短毛

が見られる。花被片4, 赤い。花は径3mm。退化した雄しべが数本あり, そのうち2本は腺体がつく。柱頭や退化した雄しべの先は花被片よりも上に突き出る。

引用文献

橋本光政. 1995. 兵庫県の樹木誌. 兵庫県農林水産部
林務課.

小林禧樹. 1992. 淡路島の植物誌. 自然環境研究所.



図 1 A ヤブニッケイ B クスノキ



図2 カナクギノキ



図 3 ヤマコウバシ



図 4 ダンコウバイ



図5 アブラチャン



図 6 クロモジ



図7 A 薄葉枇杷 B 枇杷



図8 カゴノキ



図 9 A アオモジ B イヌガシ